

2025年（令和七年）

11月21日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（11月13日～19日）の国際石油市場は、米国政府機能の回復、ウクライナ戦争の激化、先行き需給の緩和拡大などを要因として、小幅ながら不安定な動きで推移した。

NYのWTI原油先物市場は、11月13日に反発の58.96ドルで始まり、14日は続伸したが、週明け17日は59.91ドルに反落、18日は60.74ドルに反発、19日には反落の59.44ドルと、60ドルを挟み推移した。

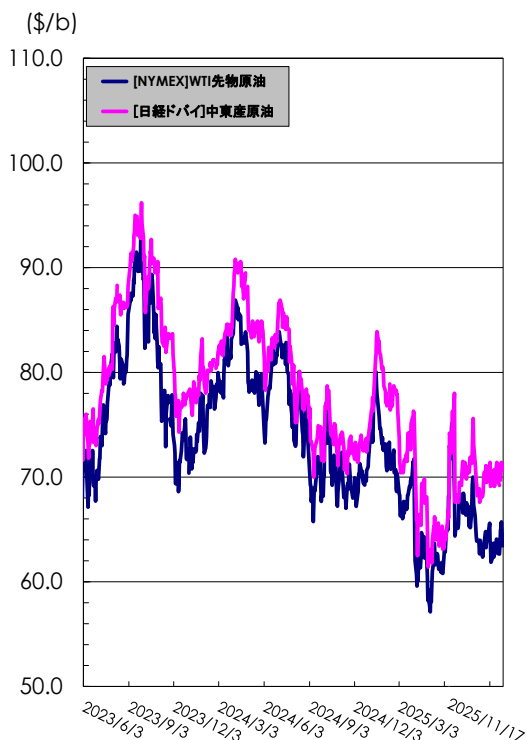
また、中東産バイ原油/東京市場（12月渡し）も、前週（11月6日～12日）は65.00～65.70ドルの範囲で推移したが、当週は、11月13日63.30ドル、14日64.70ドル、17日64.40ドル、18日64.30ドル、19日65.20ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は、前週（11月6日～12日）153.24～154.36円の範囲で推移したが、当週は、11月13日155.03円、14日154.70円、17日154.70ドル、18日154.534円、19日155.54円だった。

そのような中で、11月17日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比3.7円安、軽油も同3.7円安、灯油は同6円

安（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は169.8円だった。11月20日～26日の燃料油補助金の支給額は、いわゆる暫定税率の廃止に向けた段階的拡充に伴い、前週に続き、ガソリン・軽油は15.0円、灯油・重油の場合は従来据え置き5.0円となった。

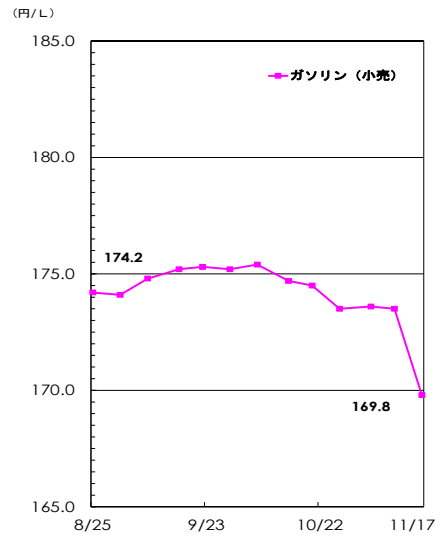
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/9 ~ 11/15	2,693	▼ -21	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.8	▼ -0.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	11/15	10,403	▲ 24	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	11/18	64.40	▼ -1.00	▼ -5.9
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/17	59.91	▼ -0.22	▼ -9.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	74.39	▲ 0.37	▼ -5.84
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	69,650	▲ 733	▼ -3,953
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	148.88	▼ -0.84	▼ -3.03
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/18	155.70	▼ -0.77	▼ -0.35



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/15	1,650	▼ -1	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/11 ~ 11/17	78.0	▼ -0.9	▼ -2.0
		(TOCOM/中部) 11/17	73.0	▼ -2.0	▼ -9.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/17	169.8	▼ -3.7	▼ -5.0

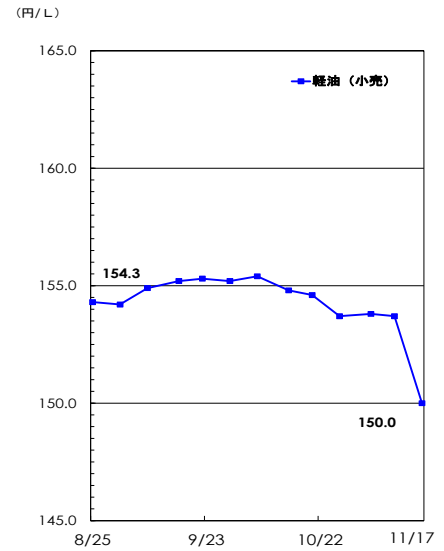
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

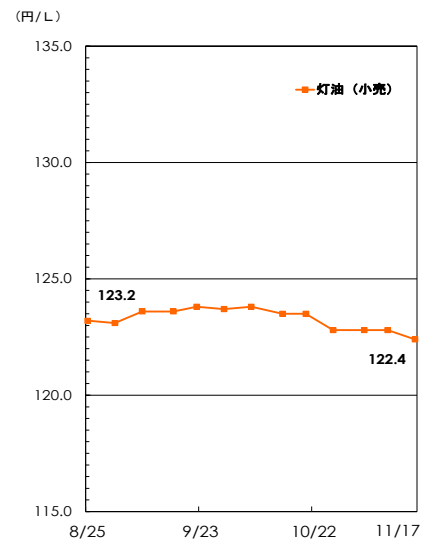
軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/15	1,447	▼ -31	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/11 ~ 11/17	76.9	▼ -3.1	▼ -5.3
		(TOCOM/中部) 11/17	-	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/17	150.0	▼ -3.7	▼ -4.6

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/15	2,537	▼ -128	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/11 ~ 11/17	86.0	▲ 0.0	▲ 6.0
		(TOCOM/中部) 11/17	84.0	▲ 2.0	▲ 1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/17	122.4	▼ -0.4	▲ 5.1



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（11月6日～12日）のNYMEX・WTI先物市場は、58.49～61.04ドルの範囲で推移した。

当週11月13日は、前日の大幅値下がりへの反動で、安値拾いの買いが横行、また、12日夜のトランプ大統領の署名に伴うつなぎ予算法の成立、政府の一部閉鎖の解消で、景気回復期待の高まり、わずかながら、反発した。なお、一日遅れの発表の米国石油在庫の積み増しが、上値を抑えた。12月もの終値は前日比0.20ドル高の58.69ドル。

週末14日は、ウクライナ軍がロシア黒海沿岸ノボロシスク港の石油輸出施設をドローン攻撃、石油輸出に障害が発生しているとの報道で、大幅に続伸した。さらに、米国はベネズエラに空母打撃群を派遣、オマーン湾でのイラン軍による民間艦船の拿捕報道があるなど、地政学リスクの増大も見られた。12月物終値は前日比1.40ドル高の60.09ドル。

週明け17日は、ウクライナ軍によるロシア南部への攻撃が続く中、輸出を停止していた黒海沿岸のノボロシスク港の石油輸出施設が稼働を再開したとの報道があり、供給懸念は後退する一方、欧米による対ロシア経済制裁強化の観測は高まり、市場は売り買いが交錯、3営業日ぶりに小幅ながら反落した。また、米国株式市場の軟化の影響もあった。12月

物終値は前週末比0.18ドル高59.91ドル。

18日は、引き続き、米国で対ロシア経済制裁強化法案の提出が準備されるなど、ロシア石油の供給不安が高まるとともに、トランプ大統領は、次期連邦準備制度理事会（FRB）議長候補との面接を発言するなど、早期利下げ期待が高まり、反発、60ドル台を回復した。12月物終値は0.83ドル高の60.74ドル。

19日は、米露間でウクライナ停戦に向けた新たな交渉が開始されたとの報道があり、停戦後の石油需給緩和懸念が拡大し反落、再び60ドル台を割った。なお、この日発表のEIAの石油在庫報告は、原油が取り崩しとなったが、ガソリンは積み増しで、大きな影響はなかった。12月物終値は1.30ドル安の59.44ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の11月19日発表の14日現在の米国在庫週報によれば、原油在庫は前週末比340万バレル減と市場予想（60万バレル減）を上回ると取り崩しだったが、ガソリン在庫は230万バレル増と市場予想（20万バレル減）に反する積み増しで、まちまちの結果となり、大きな影響はなかった。

EIAによると、11月17日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.6セント高の1ガロン3.062ドル（125.8円/ℓ）と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比3.1セント高の1ガロン3.868ドル（158.9円/ℓ）と4週連続の値上がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、11月14日時点で、米国内の

稼働陸上石油掘削装置は、前週比3基増の417基であった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、11月09日～11月15日に休止したトッパ能力は41.9万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日であった（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は269.3万klと、前週に比べ2.1万kl減少。前年に対しては1.3万klの減少。トッパ稼働率は77.8%と前週に対して0.6ポイントの減少、前年に対しては0.4ポイントの減少となった。

4 国内/製品在庫量

11月15日時点の在庫は、前週に対してガソリン、ジェット、灯油、軽油、C重油は取り崩し、A重油は積み増しとなった。

ガソリンは165.0万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては10.8万kl少ない。

灯油は253.7万kl、前週差12.8万kl減。前年に対しては19.1万kl少ない。

軽油は144.7万kl、前週差3.1万kl減。前年に対しては8.3万kl少ない。

A重油は79.7万kl、前週差3.2万kl増。前年に対しては1.5万kl多い。

C重油は153.6万kl、前週差8.6万kl減。前年に対しては19.5万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (11/15)	前週 (11/8)	前週比	
ガソリン	1,650	1,651	▼ -1	(-0%)
ジェット燃料	813	850	▼ -37	(-4%)
灯油	2,537	2,665	▼ -128	(-5%)
軽油	1,447	1,478	▼ -31	(-2%)
A重油	797	766	▲ 31	(4%)
C重油	1,536	1,622	▼ -86	(-5%)
合 計	8,780	9,032	▼ -252	(-2.8%)

5 国内/元売会社製品卸価格

11月11日～17日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりがりしたが、為替レートは円安でほぼ相殺し、元売会社の卸建値は据え置いたものと見られる。さらに、暫定税率廃止に向け補助金は段階的拡充中だが、今週の補助金は、据え置かれ、11月20日～26日、揮発油・軽油15円、灯油・重油は5円)となり、補助金込みの実質卸価格は横ばいとなった模様。

6 国内/製品小売価格

11月17日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比3.7円安の169.8円、軽油も同3.7円安の150.0円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ ベースで同6円安の2,204円(1 $\frac{1}{2}$ ベースでは同0.4円安の122.4円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりはなし、横ばいもなし、値下がりとは全47都道府県だった。全国最安値は埼玉県の163.1円、その次は愛知県の163.4円であった。他方、最高値は鹿児島県の181.5円。最も値下がり小さかったのは沖縄県(前週比0.1円安)、最も値下がりしたのは鳥取県(同5.2円安)だった。

次回調査時(11/25)のガソリンの小売価格は、引き続き、値下がり予想される。

(単位：円/ℓ)

小売価格	(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/17)	前週 (11/10)	前週比	直近高値	
	レギュラー	169.8	173.5	▼ -3.7	2023/9/4 2025/4/14	186.5
	灯油	122.4	122.8	▼ -0.4	08/8/11	132.1
	軽油	150.0	153.7	▼ -3.7	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回(2025第34号)の公表は、11/28(金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange:NYMEX)WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate:中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。